



イケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 576 回 まさに驚異的、明治維新の女性力

2014.5.11

『赤毛のアン』の日本語訳版を著し、明治から昭和の混乱期に翻訳家として活躍した**村岡花子**の半生を描いた、NHK の連続テレビ小説『花子とアン』が好評のようだ。

そんな関係からか、歴史秘話ヒストリア「新しい世界へ羽ばたこう！～明治女性の新しい生き方」という番組(NHK)が放映され、興味深く視聴した。

斬新なヘアスタイルで現れた日本初のグラビアアイドルから女性飛行士第一号まで、社会で活躍する女性が次々登場。熊谷市出身の女医第一号の**荻野吟子**をはじめ、女性のための学校を作ろうと誓った**津田梅子**と**大山捨松**、情熱の歌人・**与謝野晶子**は、「女性はおしとやかに」というそれまでの価値観を大胆に打ち破る。

時代に先駆け、新しい生き方を選んだ女性たちの物語だった。

税所敦子(さいしょ あつこ)、歌人で明治の紫式部といわれた女性、NHK の番組には登場していなかったが、もう一人、素晴らしい女性がいたことを紹介したい。

京都の宮家付きの武家の家に生まれ、20歳の時に、薩摩藩士税所篤之の妻になるが、28歳の時、篤之は病没。以後、薩摩の夫の実家に入り、大家族の中で、厳格なお姑さんに仕えることになる。でも、なかなかお姑さんの気に入ってもらえない。事毎につらく当たられる。ある日。

「世間では、この婆を『鬼婆』と陰口をたたきおるそうな。敦子、お前も『鬼婆』と思っておるのじゃろ?」「まあ、とんでもないことを…」お姑は、短冊に下の句を書くと、それを敦子に強引に渡し、「さあ、これに上の句をつけてみよ」と短冊を突きつけて迫ったのだ。

下の句には、「……鬼婆などと人はいうなり」と記されていた。

その時、敦子は悪びれたところも無く、微笑みながらその短冊を戴くと、

「仏にもまさる心と知らずして」と上の句を付け加えた。

仏にもまさる心と知らずして 鬼婆などと人はいうなり

しばらくの間その短冊を見つめていたお姑さんは、遂に泣き出して、日頃の自分の非を詫びたという逸話が残っている。

そして、明治維新後は宮中に上り、皇后の和歌の侍読(じどく)に任命され、しかも歌道を説くだけでなく、宮内省に勤める女官たちの機構改編をも任される。このとき齢(よわい)51歳。

静かに余生を送ろうと決めた矢先だった。新時代に不要な旧習を改め、合理的な仕事法を編み出し、西欧諸国と交流を深めるために自ら進んで英語やフランス語を学んだというから、まさに最先端の改革を、もっとも古式ゆかしき組織で成したと言えるだろう。

伊藤博文公をして、「あれほど偉い婦人には初めて会った」と驚嘆せしめ、千古の女性の鑑(かがみ)と謳われた敦子は、明治32年(1899年)2月逝去。享年76歳の生涯であった。